

第 121 回古民家歴史部会・歴史探訪

「新・東海道の宿場探訪シリーズ・第 16 回」

平成 29 年 10 月 4 日(水) 「間の宿・茅ヶ崎」

*集合：辻堂駅(改札口) 9 時 50 分厳守同時出発

行 程：下記「探訪先」に同じ。

- ①上正寺：龍澤山龍徳院と号す。浄土真宗西本願寺末。本尊は阿弥陀如来。元禄十五年(1702)僧圓春の境内太子堂縁起によると、圓融院 第四皇子 尊勝法親王 郡中寺尾郷(市内小出町)に一宇を建て、海圓院と号し、顕密兼学の道場とした、とあります。境内には上野寛永寺から移設された大きな石灯籠がある。これは戊辰戦争で寛永寺が延上し、縮小されたときに、寛永寺にあった数多くの石灯籠が東京近隣の天台宗の寺に移築されたものです。
- ②千手院：高野山真言宗の寺院。千手院には最近修復された閻魔十王象がある。かつては、大山詣での客で賑わう田村道沿いまで出開帳していたという。
- ③廣徳寺：高野山真言宗の寺。「四国八十八ヵ所お砂踏み」がある。第一番から第二十三番(阿波・徳島県)の霊場を【発心の同上】、第二十四番から第三十九番(土佐・高知県)の霊場を【修行の道場】、第四十番から第六十五番(伊予・愛媛県)の霊場歩菩薩の道場】、第六十六番から第八十八番(讃岐・香川県)の霊場を【涅槃の道場】が配置されており、順にお参りできるようになっている。各国(四国)の下には四国のお砂が治められているという。
- ④牡丹餅立場跡・七里役所跡：藤沢宿と平塚宿間は三里半(約 14km)あり、その間に「四ツ谷」「牡丹餅」「南湖」「八幡」の四つの立場があった。この「牡丹餅立場」には七里役所という飛脚の継立場もあったという。
- ⑤松並木説明板：県立茅ヶ崎高校前には「東海道の松並木」の説明板が設置されている。
- ⑥海前寺：曹洞宗の寺院 墓所には昭和の拳聖「ピストン堀口」の墓がある。
- ⑦本村のタブノキ：市内の自然植生の代表的な樹種であるタブノキの巨木で、樹齢約 450 年と言われている。市街地では珍しく自然の形で大きく育っており、変わりゆく周囲の景観とは対照的に、ずっと変わらない姿で在り続け、緑のある沿道の景観を創り出している。(茅ヶ崎市景観重要樹木第 4 号)
- ⑧八王子神社：境内には本堂の他、本村天満宮・八坂神社・正一位稻荷大明神ほんそんの小社もある。新田義貞鎌倉討入の際、当神社に祈請し、神火を拝げて兵勢を挙げ、北条氏を滅したと、伝えられています。
- ⑨茅ヶ崎一里塚：ここは江戸から 14 番目の一里塚。(日本橋から約 56km)

【参考資料】「ほんとに歩く東海道(風人社)」 「神奈川県謎解き散策(新人物往来社)」 「東海道五十三次ガイド(講談社)」
「神奈川県の東海道(神奈川県東海道ルネッサンス推進協議会)」 「江戸の旅(河出書房)」 他

あい しゆく

間の宿

「間の宿」は宿場間の距離が長い場合や、峠越えなどの難路の場合に宿場と宿場の間に自然発生的に成立した休憩用の町場である。公的には宿場と認められていないため旅行者の宿泊は禁止されていた。また、「間の宿」より小規模なものを「立場」という。間の宿の中には立場が発展したものもある。 神奈川にはこの「茅ヶ崎(牡丹餅)」のほかに「二宮」「畑宿」に間の宿があった。

東海道歴史探訪16

間の宿(茅ヶ崎)

2017.10.4

